発行／（株）村上工務店 社内報編集部 神戸市兵庫区三川口町2-4-8 TEL.078（577）2031（代） 発行人／村上隆俊

まごころ
with all our hearts
magokoro

Vol. 39
September 2007

▶ **Customers Information**
お客様訪問レポート

株式会社 神戸ヤクルト工場 代表取締役社長 **伊東 賢一** 様
手から手へ やさしさと健康を届けたい

▶ **Special 1** 山陽ケアセンター神戸 所長 管理者 **江川 千代美** 様

Special 2 社会福祉法人 イエス団，東川崎高齢者総合ケアセンター 真愛
施設長 **出上 俊一** 様　センター長 **松浦 慎介** 様
高齢者介護、その現実と問題点。そして未来は…？

▶ **Interview** 匠に聞く
共田工業株式会社 **杉浦 学** 様
ものづくりの醍醐味は実感できる達成感

▶ **Topic** 村上工務店 企画営業部 設計担当部長 **石野 皖章**（きよたか）
介護福祉施設の設計にあたって

▶ **Report 1** 清掃奉仕活動報告
Report 2 安全衛生推進大会開催

▶ **Information**
村上工務店の中古マンション情報
デコールメゾン

Customers Information
＊お客さま訪問レポート＊

手から手へ やさしさと 健康を届けたい。

株式会社 神戸ヤクルト工場　代表取締役社長　伊東 賢一 様

株式会社　神戸ヤクルト工場 代表取締役社長
伊東賢一 様

「ヤクルト」から、どのようなことを想像しますか？　乳酸菌やビフィズス菌という専門用語から、子どもや赤ちゃん、ヤクルトスワローズ、ヤクルト化粧品、そして、おなじみのヤクルトレディー！　それらに共通することは「健康」「安全」「元気」という明るくポジティブなイメージです。このような企業イメージは、短期間でつくられるものではなく、長年積み重ねた努力が消費者によって認められた結果であるといえます。今回は、西日本エリアにおける製造の中心地であり、当社が大変お世話になっている兵庫ヤクルト販売株式会社様（代表取締役社長　阿部泰久様）や、神戸ヤクルト販売株式会社様（代表取締役社長　谷川清十郎様）へも製品を出荷している、株式会社神戸ヤクルト工場様へお伺いし、社長の伊東賢一様からヤクルトの「愛される理由」をお聞きしたいと思います。

ナショナルブランドの確立は日々の努力から

まず初めに「ヤクルト」という企業としての特徴と、そのなかで神戸ヤクルト工場の役割についてお聞きしたいと思います。

ヤクルトは1930年、創始者である代田稔博士が人の健康に役立つ乳酸菌を強化・培養し「ラクトバチルス　カゼイ　シロタ株」をつくりあげたことに始まります。最近になってようやく「予防医学」の重要性が叫ばれるようになってきましたが、当社は当初から病気にかかってから治療するのではなく、かからないようにするのが大切だと考え、70年以上も前から毎日の健康づくりを促進する製品開発に取り組んでいるのです。

また、健康で長生きするためには、腸を丈夫にすることが重要だということで「健腸長寿」を提唱し、これは現在の「プロバイオティクス」という考え方の先駆者と言えます。

ここ、神戸工場は昭和33年に創業、その後、プラスチック容器の生産が開始されたことを機に、昭和46年、現在地に移転しました。この工場ではヤクルトの看板商品である「ヤクルト400」を筆頭に「ヤクルト80Ace」「ヤクルト300V」「ヤクルト300VLT」を製造し、近畿を中心に、東京、中部神奈川、東海、中四国、九州の支店へ発送する製造ラインの要として稼動しています。従業員一同の顔をごらんになっておわかりように、みんな毎日、ヤクルト製品を飲んでいますから、元気で、活き活きと働いてくれています。

ヤクルトが長年、消費者の方に支持されている理由はどのようなところにあると思われますか？

もちろん商品の特異性や健康への効果は実感していただいておりますが、とくにお客さまとの信頼関係をもっとも大切にしています。今、国内外問わず、食の安全性が問われていますが、食品製造に携わる者として、この信頼無くしてはどれほどすばらしい商品を作っても意味はありません。そういったことで、ヤクルトは創立以来「事故ゼロ」を続けています。これらの企業としての態度が安心感を呼び、お子さまからお年寄りまで年齢問わず、飲んでいただいている理由だと思います。

具体的にどのような管理体制を行っておられるのでしょうか？

原料の仕込みから、培養、調合、容器の成形、充填、包装、そして出荷まで、一貫した生産システムを行っております。それを食品衛生管理システム「HACCP（ハサップ）」といい、すべての生産工程において、品質管理と衛生管理の徹底化が図られているのです。

製造現場にはありとあらゆる機械が稼動しています。それらの機械類の分解洗浄に費やすのは毎日、2時間。そして、生きた乳酸菌を扱う際、もっとも重要な温度管理につきましても徹底した管理で最適温度をキープしています。また、従業員の服装や消毒殺菌はもちろんのこと、出荷まで行う品質チェックは合計7回、最後は熟練された人の目による選別が行われる、というわけです。このような見えない努力があ

様々な検査機器での製品チェックを通過したヤクルト。最終的には目視検査が行われます。

ってこそ、本当にいい商品が生まれるのだと思います。

ここ数年、多発している食品会社の不祥事は、結局、技術的な進歩や制度に人間がついていけなかったのが原因だと考えられます。毎日の衛生管理を怠るということは、その最たるもので、それが「手抜き」というモラルの欠如になっていくのです。しかし手抜きというのは、ひとりだけに留まらず、増幅し、伝染していくものです。それが最後には企業をも消滅させてしまうほどの「毒」になってしまうのでしょう。

ヤクルトの健康サポートは国境を超えて

ヤクルトは国内はもとより、海外の業績が飛躍的に伸びておられるということですが？

現在、アジアをはじめ、アメリカ、ヨーロッパ、オーストラリアなど20ヵ国以上に事業所があり、日本をはじめとして毎日約2500万本のヤクルトを愛飲していただいております。

海外進出については「現地主義」。まず最初に生産から流通、販売をすべて現地で行うシステムを構築し、しっかりとした基盤をつくります。そして利益が見込まれるようになったら、一切の運営を現地でまかなうことになっています。

世界的な健康ブームでもありますし、今では海外の出荷率は国内の1.5倍までになりました。もちろん販売方法は日本と同じ、宅配システムで現地のヤクルトレディが行い、現在、海外では35000人のヤクルトレディが活躍しています。

ヤクルト400はコンベアーによって、冷蔵庫へと次々に運ばれていきます。

地元密着で地域に愛される企業を目指して

こちらでは工場見学を実施されているそうですが、見学者の反応はいかがですか？

20年前から一般の方々をはじめ、この西区の小学校全校にPRし、地域交流を図っております。

見学コースは、充填から包装工程までの製造ラインがひと目でわかるようになっていますから、とても興味をもって見ていただいております。説明は私たち従業員が行いますが、初めの頃は慣れなくて、反省の連続でしたね（笑）。

とくに子どもたちの場合、いつも飲んでいる商品がどのように作られているのか、どんな人たちが作っているのかはとても興味があるようで、質問などもよくいただきます。リサイクルについて、ヤクルトの容器の形、衛生面についてなど、なかなか観察力が鋭くて、驚くこともありますよ。

また平成17年には、初めての試みとして、従業員の家族の見学ツアーというのを企画しました。父親・母親または夫や妻の働く現場を見ることによって、従業員たちの株がぐんと上がったようですよ。

さらにこの見学は新人のヤクルトレディの研修の一環にもなっています。新人さんは徹底した品質管理を自分の目でじっくり観察してもらうことによって、お届けする商品に自信をもつことができる、というわけです。

世界へ向けて健康発信、予防医学時代へ

ヤクルト全体として、そして神戸ヤクルト工場としての今後の目標をお聞かせください。

ヤクルト全体としては、国内の販売本数1000万本を目標に、企業努力をしながら、まい進していくということです。

神戸工場としては、社会、地域に貢献しながら、企業理念である「生命科学の追究を基盤として世界の人々の健康で楽しい生活づくりに貢献します」をつねに念頭に置き、製造の更なる品質向上と合理化をはかりながら生産量を上げることです。そして、創始者である代田博士が提唱した「予防医学」の普及に尽力していきたいと思います。

神戸ヤクルト工場全景写真

株式会社 神戸ヤクルト工場
〒651-2111 神戸市西区池上3-5-3
設立：昭和44年11月　資本金：250,000千円
事業内容：乳製品の製造
（ヤクルト400、ヤクルト80Ace、ヤクルト300V・LT）
TEL.078-974-8960（代）　**FAX.078-974-3619**

Special 特集 高齢者介護、その現実と

所長　管理者　江川 千代美様

特集1 山陽ケアセンター神戸　ハートフルコスモス神戸
医療と介護の行き届いたケアで安心な暮らし

高齢者の方々にとって、安心してすごせる理想的な暮らしとはどのようなものなのでしょうか？
さまざまな業界が介護事業に参入し、選択肢は広がったものの、問題点やトラブルは後を絶ちません。
そんななか、豊富な介護経験と現場の声を生かし、高齢者の方々の心から信頼でき、くつろげる、もしくは家族が安心して肉親を託すことができる住まいづくりを目指し、高齢者向け賃貸マンション「ハートフルコスモス神戸」が誕生しました。日々、高齢者と、そして施設で働くスタッフと向き合う、江川千代美様にお話をお伺いしました。

談話室でスタッフとともに楽しい時間をすごす

まず、このマンションの特徴を教えてください。

最大の特徴はマンションの母体が病院なので、きちんとした健康管理のもとで暮らしていただけるということです。そして介護で豊富な経験をもつ「山陽ケアセンター神戸」が直結しているので、万一のときも速やかな対応ができ、精神的な安心感があるということですね。このようにしっかりしたサポート体制が背景にあると、従来の高齢者施設にあるような細かい規則や制約は不要になり、自宅のような感覚で暮らしていただくことができます。すぐそばにある介護のプロ、医療のプロの行き届いた目は、居住者にとって何よりのケアだと思います。

今回のマンションの建設にあたって、どのような点に工夫をされましたか？

バリアフリーであることやオール電化であること、全戸南向きなど、ハード面の充実はもちろんですが、ソフト面にも力を入れました。それは24時間体制のスタッフと直結しているナースコールを設置し"安心"を見える形にしたということです。例えば、夜中、急に具合が悪くなったとしましょう。しかし、なかなか救急車は呼びにくいものですね。でもナースコールであれば、すぐとなりの棟で待機している顔見知りのスタッフと連絡がとれます。また当センターのスタッフは、医療知識を備えていますから、緊急事態にも対応できるということです。その分、スタッフはどのような些細な変化も見逃さないよう、日々努力をしています。

人員確保が厳しいのはどのような理由からだとお考えですか？

来たる高齢者の急増に社会が対応できていないのは、誰の目から見ても一目瞭然です。その理由のひとつには、介護は医療と同様、重要で大変な仕事ですが、残念ながら社会的地位がまだまだ低いということが背景があるのではないでしょうか。介護の場合、治療し、完治すれば退院ではなく、毎日の暮らしそのものであり、マンツーマンで長い時間向き合わなければなりません。ですから、スタッフ一人ひとりへの責任は大きく、人間性が重要になってきますから、心身ともに大変です。

たしかにここも人員が足りているとは言えないまでも、スタッフは本当によくやってくれています。例えば流動食しか食べられない方にも一品一品きちんとお皿に盛りつけ、それを見ていただき、その方が納得してからミキサーにかけるようにしています。料理は五感で味わうといいますから、手間がかかってもそういう細やかな心配りをすることによって、心は通じ合うものです。

メンタル面でのケアは、どのようなことを心がけていますか？

子育てと同じで、ほかの人と比較しないこと。個々の方には個々の時間の流れがありますから、けっして介護する側中心の時間で接しないことです。そして、いくら認知症の症状が進んでも、100%自分を失うことはありませんから、それも含めた人格として向き合うことだと思います。また、介護で大切なのは「今、この方には何が足りないのか」を考え、その部分をサポートすることですね。どちらかに依存するのではなく、あくまで個人を尊重したフィフティー・フィフティーの関係が大切だと思います。

高齢化社会時代を目前に、今度、どのような展望をおもちですか？

国民一人ひとりの意識改革が必要、といえば漠然としていますが、実際、誰しも老いて、誰かの世話にならなければならない時がくるわけです。

家族での介護には限界があります。ですから、今、現在の介護の現場でいる私たちができることは、たしかに未熟であるのは否めない介護保険制度のなかで、それをいかにうまくコーディネイトし、どう社会資源をチョイスするか、それを高齢者の方々が満足いただけるように還元するかが問われているのだと思います。

「ハートフルコスモス神戸」外観

山陽ケアセンター神戸
神戸市中央区神若通4丁目2−19
TEL:078-291-5056
FAX:078-291-5057

問題点。そして未来は……？

今年の7月下旬に完成した、東川崎高齢者ケアセンター「ゆうき」

特集2 社会福祉法人 イエス団 東川崎高齢者ケアセンター「真愛」
小規模多機能型住宅介護サービス「ゆうき」

多様化するニーズに対応する新しいケア施設

「地域に根ざした老人福祉を」「利用者をはじめ、家族とネットワークが築け、安心していただける施設を」というスローガンのもと、今年8月に完成した東川崎高齢者ケアセンター「ゆうき」。特徴は「小規模多機能介護居宅」という昨年の介護保険改正で誕生した新しいサービスの高齢者ケアセンターです。ますます進む高齢化社会に向け、利用者の方々に本当に満足いただける福祉のあり方、そして現在、社会問題にもなっている老人福祉施設の問題点など、この新しいケアセンターのオープンに先駆け、施設長である出上俊一様とセンター長の松浦慎介様にお伺いしました。（文中敬称略）

まず「小規模多機能介護居宅」とは、どのようなサービスなのでしょうか？

施設長　出上 俊一様

出上　従来の私どもが運営しております「真愛」が96名（真愛ホーム・東部特養の合計）の受け入れに対し、新しいセンターの「ゆうき」は、登録数が25名、通いは13名、宿泊は4名という「少人数の小さな施設」ということが大きな違いです。そして「通い」と「訪問」「宿泊」という3つのケアが一体化することによって、柔軟で安心した対応ができるようになりました。

ケアの違いによって場所やスタッフが異なることは、高齢者の方にとってはストレスになり、それが精神的負荷をはじめ食欲不振、不眠症、認知症の原因になる場合もあるといいます。しかし、このようにサービスが一体化すると、意志の疎通や連携もスムーズになりますし、家族の方にも安心していただけると思います。住み慣れた場所で、顔なじみの人たちとの触れ合いこそ、介護の基本だということですね。

内部の構造でとくに配慮した部分というのはどういった点ですか？

松浦　施設内すべての場所がすべての人にとって「排除された」と感じない空間であるという点です。利用者の方々のなかには車椅子や杖、シルバーカーなど、さまざまな補助が必要です。そんなとき、少しの段差で行きたい所に行けないと「私は何もできない」という自己嫌悪感が芽生え、自分の殻に閉じこもってしまうことになります。ですから、ハード面の自由さを実感することによって、精神的な開放感を得られる建物でありたいという思いがありました。

センター長　松浦 慎介様

最近、大手企業が手がける老人介護施設についてはどのようにお考えですか？

出上　介護保険制度は3年ごとに改定され、そのつど給付が引き下げられているというのが現状です。その背景には、民間企業が来たる高齢化社会に向け、介護事業は儲かると、積極的に参入したという現象がありました。皆さんもご存知のように、一時、老人介護施設が爆発的に増えた時期がありましたよね。しかし、その一方で行政は企業の利潤追求を抑えるため、給付金を引き下げ、それが悪循環を生むことになったのです。つまり介護事業に参入した企業は、思惑どおりの利益を得ることができないため、その穴埋めとしてサービスの質を落とす、といった状態ですね。その最たるものが先日の問題です。

松浦　現在、介護業界では人材確保の面でも厳しい状況に立たされています。しかし、だからといって人員不足を補うため、いい器具や機能的な機械を導入しても、人の手の代わりにはなれません。「マン・パワー」こそもっとも必要であり、人とふれあい、交わってこそ、本当のケアができるのですから。

大変だといわれている人材育成という面ではいかがですか？

松浦　目の前にいる人といかに関われるのか、そばで何ができるのか、という日々の積み重ねこそが大切だと思います。ですから「指導」という意識ではなく「伝える」という気持ちですね。そのなかでも「ありがとう」「ごめんなさい」というひと言は大切だと実感します。

今、このセンターのスタッフは、みんな本当にお年寄りが大好きで、心と心のつながりを大切にしてくれていると確信しています。

このように新しい拠点ができたことによって、どのような今後、展望をお考えですか？

出上　8年あまりの事業展開のなかで「東川崎の地でもっとも必要なもの」とは、すべてのサービスが満たされる拠点づくりでした。

この小規模多機能介護居宅施設の誕生によって、高齢者の方々が「真愛があるから大丈夫、安心」だと思っていただける環境づくりへ、そして住みよい街づくりへ貢献できたら、と思います。

「ゆうき」の内部

社会福祉法人　イエス団
東川崎高齢者ケアセンター真愛
神戸市中央区東川崎町6丁目1-12
TEL:078-685-6800
FAX:078-651-2555

介護福祉施設の設計にあたって

村上工務店　企画営業部　設計担当部長　石野 皖章（きよたか）

わが国は2025年には高齢者が約530万人、2050年には人口の約3分の1が65歳以上の、超高齢化社会を迎えます。しかしながら、介護を行う人の不足や、介護保険制度自体がまだまだ未熟な事もあり、高齢者の急増に施設数が追いつかず、在宅での介護に頼らざるを得ない方々が増え続けているのが現実です。

私たち造り手は、このような現状を踏まえ、運営者、利用者という双方の立場から企画設計を行う必要があります。

介護施設運営者にとって、最も大切なものは「マンパワー」であると言われています。現状ではどこの施設も人手不足に頭を抱えておりますが、この問題を「いかに補えるような施設にできるか」という事を念頭に置きプランニングを進めます。介護を補助してくれる設備の導入や使いやすい動線を考えた上で、コンセントの高さやストッパー付の建具等、些細な工夫を肉付けしていきます。私たちは、この「小さな工夫をいかに多く見つける事が出来るか」という点が最も大切だと考えています。

言うまでもなく、実際に施設を使われる利用者の立場は、施設設計において最も重要です。バリアフリー設計は当然ですが、それと同時に注力する点があります。それは、利用される方々が施設に関わると、これまでの生活や、家族との関係など様々な環境が全く変わってしまうという点です。住み慣れた自宅や人間関係から、新たな世界に入る事は高齢者にとって、私たちが思う以上に深刻な問題です。これらを少しでも和らげる事が出来るように、安心して活き活きと暮らせるコミュニティを重視したスペースや、きっちりとプライバシーを守れるスペースなど、明るく楽しい雰囲気づくりを常に思い描きながら、設計にとりいれていきます。

介護福祉の業界は、まだまだ発展途上であり、様々な問題を抱えています。そして、これらは、決して他人事ではなく、老若男女問わず、全ての人が真剣に考えていかなければならない問題です。

私たちは、単に造り手としての立場だけでなく、運営者、利用者の立場に立った設計・施工を行ない、より使いやすい建物を提供させていただきたいと考えています。

Report 社内ニュース①

清掃奉仕活動報告

毎年、恒例となりました清掃奉仕活動、今年の状況を以下のようにご報告させていただきます。

〈作業場所〉　神戸市西区平野町
平野橋下流側
常本橋～平野町河川市民公園区間（川西側）
〈作業内容〉　伐採作業
不法投棄の回収作業
〈実 施 日〉　7月23日（月）8時～12時
〈参加人数〉　39社　44名
（うち弊社は社長以下4名が参加）

社団法人兵庫県建設業協会 西神戸支部主催

暑いなか、参加されました皆様、ごくろうさまでした。

河床および法面の伐採作業

作業終了後の終礼の様子

Report 社内ニュース②

安全衛生推進大会開催

去来川 敬治様（いさがわ たかはる）

さる6月21日、恒例の安全衛生推進大会が、社員はじめ多くの協力業者の方々の出席のもと、本社4階大会議室で開催されました。

第二部の特別講演会において、社会保険労務士であり、大阪安全衛生教育センターの非常勤講師としてご活躍中の去来川敬治氏による「人を学ぶ、人は学ぶ」というテーマのお話を伺いました。

労働災害の現状をはじめ、安全衛生活動をすすめる上で、あらためて私たち人間の特性を認識する必要性や、安全と品質の関係、職場におけるメンタルヘルスケア対策、リスクアセスメントとその結果に基づいた措置など、あらゆるデータをもとにわかりやすく語られました。中でも印象に残った言葉は、

●人間の特性について

「人は、忘れてしまう動物である」「人は、間違いを起こす動物である」ことを認識する必要がある。

重大事故があっても、時と共に忘れてしまう。また、確認ミス・判断ミス・うっかり・ぼんやりなど。だから、繰り返して何度でも教育する必要があるのです。

●教育について

「教育の目的と評価は、どれだけ教育したかではなく、どれだけできるようになったかである」

●安全と品質について

「安全と出来映えと能率とコストは、常に一体である」

「安全管理と品質管理は、切り離せないものであり、一体体制で組織的に行うことが適切であり、効果的である」などです。

匠に聞く

— 第2回 —

共田工業株式会社　杉浦 学 様

ものづくりの醍醐味は実感できる達成感

何事も基礎が大切だというが、最たるものが建築である。
ひと言に「基礎工事」といっても、
根切り（基礎、地下構造物の施工するための土の掘削）から始まり、
埋め戻し（根切り部分と基礎、地下構造物との間隔を土や砂などで充填）、
盛り土（土または砂を現状地盤から設計地盤まで盛る）、
不用土処理、山留め壁（根切り側面の土の崩壊を防御するための仮設備）、
排水、杭地業（コンクリート現場打ち）など、細部に分かれ、
これらのひとつひとつの工程が後々の工事に大きく影響してくる。
そんな建物の要を支える職人、
杉浦学様を訪ねるため、夏本番を前にした現場へと向かった。

工事現場は、体力仕事であるのは当然、夏は暑いし、冬は寒い……と単純に考えても重労働だというイメージがある。しかし杉浦さんは開口一番、「楽しいですよ。好きですね、この仕事」と、気持ちのいいぐらい、さらりと応えてくれた。

杉浦さんが建築土木の世界にはいったのは19歳。キャリアは今年で14年目になる。

「もともとは家業が瓦を扱っていたので、建築は身近な存在でした。この仕事に就いたきっかけは、ちょうど今の会社に知り合いがいたことから、自然の流れというのでしょうか。たしかに夏は暑いし、冬は寒い。また天候にも左右されるという厳しい現場ですが、好きですね。建物が日に日にできあがっていく工程を目の前で見るのはとてもおもしろいし、やりがいがあります」。

たとえば、一日じゅうデスクワークだったり、実感を伴わないコンピューター作業などはたしかに体力的には楽で、高収入を得るものが多いかもしれない。

しかし、そこに価値を見出さないのが、身体で体得した技を有する職人だ。

「仕事をした分だけ明らかに進化していく、昨日より今日、今日より明日、とね。それがものづくりの醍醐味でしょう。また、現場は、さまざまな建築土木の技をもった職人たちの集団です。人の力の結集、もしくは技の結集によってひとつの完璧な建物ができあがるのってすごいと思うんです。

ときどき子どもと一緒に街を歩いていて、自分が関わった物件の側を通ることがあるんですよ。そんなとき、この建物はお父さんたちが建てた、と教えてあげることができる、そんな瞬間も楽しいですね」。

一方、迫っている工程との格闘は毎度のこと。つねに時間に追われている感は否めないという。かといって、現場は日々、流動的で、天候にさえ左右される。また、周囲の環境の状況によって時間的におしているにもかかわらず、残業もできない場合もあり、そういったときは休日返上。とにかく時間との戦いはどの現場でも同じだとか。

「絶対に工程を遅らせることはできない、というプレッシャーはつねにもっています。でもそこは熟知した人たちが仕事をしているので、今まで工程に遅れたという経験はほとんどありません。

それから、この仕事をしていて、意外だったのは、案外さまざまな資格を取る必要があるということですね。解体現場にいくときや、一時、問題になったアスベスト問題などの対処法として、やはり知識が必要だということでしょうか」。

建築という仕事にやりがいをもち、これからいろんな建物を建てていきたいという杉浦さんに将来の目標を聞いてみた。

「そうですね……、これからいろいろな現場で経験を積むことはもちろんですが、同じ建築現場で仕事をするなら、外溝工事を専門にした仕事を任せてもらえるような実績を積んでいきたいと思います」。

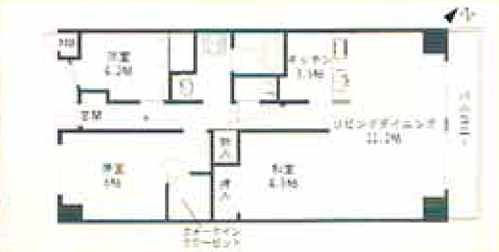
砕石の転圧作業

駐車場の土間の整地

村上工務店の中古マンション情報（いずれも弊社売主です）

ＪＲ六甲駅徒歩10分に約120㎡の住まい
甲南メゾン六甲　3380万円

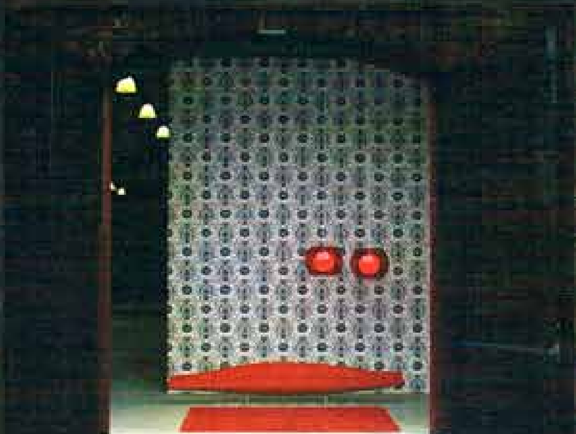
都心三宮のファミリータイプ3LDK
グランドメゾン三宮　2380万円



夜景を独り占め！　超眺望な一室
ビバリーハウス青谷弐番館　1250万円

詳しくは 村上工務店・開発室　TEL.078-515-2332　までお電話ください。

ROOMSERVICE
www.roomservice.jp



DecorMaison
TAPETDESIGN

デコールメゾンは、村上工務店が輸入している北欧スウェーデンの紙製クロス（壁紙）です。

ホルムアルデヒド発散等級 F☆☆☆☆、および不燃材料として防火認定を取得しています（一部柄を除く）。

お問合せは 村上工務店・開発室　TEL.078-515-2332 まで。　www.decormaison.jp

株式会社 村上工務店
神戸市兵庫区三川口町2-4-8　TEL.078（577）2031（代）　FAX.078（576）3773
ホームページからも様々な情報がご覧いただけます。
http://www.murakami-gc.co.jp　E-Mail　info@murakami-gc.co.jp

【お客様の個人情報のお取り扱いについて】　個人情報に関するお問合せ窓口　個人情報に関する苦情、開示、訂正、利用停止等を下記窓口にて承っております。
株式会社 村上工務店 営業部　〒652-0815　神戸市兵庫区三川口町2丁目4番8号　TEL.078-577-2031　FAX.078-576-3773　E-mai:info@murakami-gc.co.jp
詳細はホームページをご覧ください。　http://www.murakami-gc.co.jp

R100